

## 非医療系学部の異分野シーズをどのように発掘するか？

○嵯峨山和美<sup>1)</sup>、和田一葉<sup>2)</sup>、丹浩伸<sup>3)</sup>、住田能弘<sup>3)</sup>、杉元理恵<sup>4)</sup>、神川邦久<sup>23)</sup>、渡邊裕<sup>1)</sup>  
 (岡山大学 研究推進産学官連携機構 知的財産本部<sup>1)</sup>、大学院医歯薬学総合研究科<sup>2)</sup>、  
 岡山大学病院 新医療研究開発センター<sup>3)</sup>、研究推進課<sup>4)</sup>)

### 1. はじめに

岡山大学では、「健康寿命の延伸を目指した次世代医療橋渡し研究支援拠点」を掲げ、平成26年度に国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）の「橋渡し研究加速ネットワークプログラム」に採択された。オールジャパンで橋渡し研究を効率的に推進する体制の構築を目指し、現在、全国に10ある革新的医療技術創出拠点の基盤整備を進めている。岡山大学拠点は、平成29年度からは後継事業である「橋渡し研究戦略的推進プログラム（以下、橋渡しPG）」を運用しており、主に、中国・四国地方の大学を中心に、各大学の研究支援スタッフの協力を得て、医療系学部のシーズ（図1）の発掘と育成とに努めている。今後は、理、工、農学部などの非医療系学部の革新的基幹技術の発掘に注力し、異分野融合による更なる革新的医療技術の創出、すなわち革新的なモダリティ技術（図2）の創出を目指すことが求められている。

本発表では、橋渡しPGシーズAの特許出願を視点とした現状報告から、非医療系学部の異分野シーズの発掘による医療系と非医療系学部との融合シーズの創出および育成の協働について提議したい。

### 2. 橋渡しPGの現状と異分野融合研究の発掘に向けて

橋渡しPGのシーズAは、2年以内のアカデミアからの特許出願を目指す課題を対象とし、拠点の裁量において研究費が配分され、本研究費は、特許出願費用として活用できる。平成26-29年度までにシーズAの支援を終了した56案件のうち、38案件が特許出願を完了している（図3）。そのうち、4大学においてシーズAの研究費を活用し特許出願がされている。また、中国・四国地方の9大学へのアンケートでは、そのうちの7大学がシーズAの研究費を特許出願に活用できるとの回答を得ている。昨今、大学が申請する特許を精選すると共に、その費用を第三者に負担して貰うべく懸命の努力を払っていることから、橋渡しPGのシーズAの研究費を特許費用に活用することは、革新的な基幹技術の保護に役立つと考える。

一方、異分野融合研究の成功には、特許情報からのFターム（発明の技術的特徴による分類体系）解析による研究パートナーの探索が有効であり<sup>1)</sup>、かつ、共同研究の実績のある研究者との融合、産学連携活動の促進が重要である<sup>2)</sup>との報告がある。

よって、革新的な医療系異分野融合シーズの創出のための非医療系学部のシーズ発掘には、橋渡しPGを活用しながら、各大学の知財スタッフと産学連携コーディネータとの強化体制が重要である。

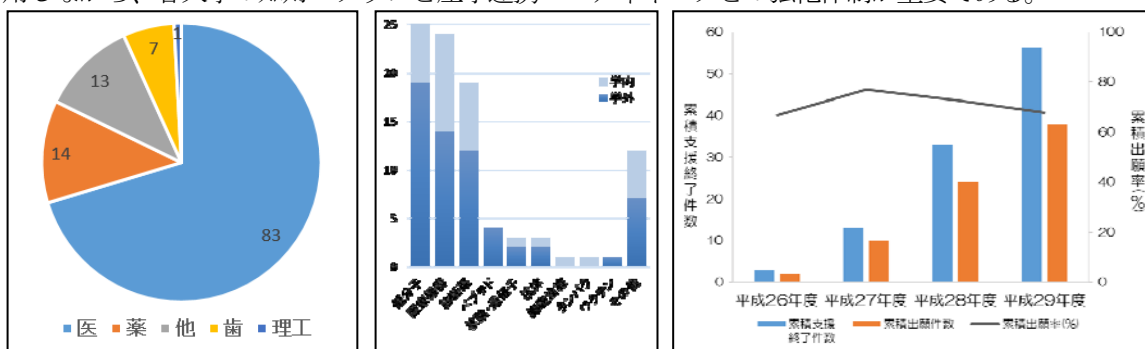


図1. H30応募シーズの研究代表者の所属先(人数)

図2. H30応募シーズのモダリティ

図3. シーズA支援終了後の出願状況

### 3. まとめ

非医療系学部のシーズ発掘には、各大学の特長を生かした異分野における基幹技術の調査から医療系分野への応用を模索し、岡山大学拠点内外の研究支援スタッフが丸一となって取り組むことが重要であり、民間企業の事業に役立つような特許運用のための知的財産の保護を目指し、企業導出へとつなげたい。

#### 【参考文献】

- 1) 山中とも子ら、「企業における異分野融合の成功事例のプロセス解析」、*情報の科学と技術*, Vol.65, No.3, pp.130-135, 2015.
- 2) 山口佳和ら、「大学特許と影響要因の関係の定量的評価に関する研究」、*産学連携学*, Vol.12, No.2, pp.91-103, 2016.